

5

取組種別

関連情報の整備・管理

取組概要

援助機関、NGO、大学などが開発途上国に対して行う国際協力活動を一層効果的なものとするためには、我が国において実施された国際協力活動に関する知識や経験を収集・整理・蓄積・体系化し、いつでも活用できるようにその存在や意義、活用方法を広く知って貰う必要があります。

そこで、「国際協カイニシアティブ」では、各事業実施機関が作成したモデル（成果群）を収集・蓄積・整理・発信し、これらの情報が我が国の国際協力活動の質向上に役立てられるよう努めました。

取組事例

●「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点形成事業全体に係る成果品の収集と管理

事業代表者：筑波大学 磯田正美 准教授 P48~49

「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点 形成事業全体に係る成果品の収集と管理

[実施機関] 筑波大学
[事業代表者] 磯田 正美 准教授

主な活動対象国
● 日本

概要

国際教育協力に従事する団体や個人が自らの活動の参考として活用できるように、「国際協カイニシアティブ」各事業の成果物をはじめ、国際教育協カに役立つ各種情報の収集・蓄積・公開を行いました。

背景

教育普及、地域・産業振興、感染症対策、環境改善、法整備など開発途上国が抱える幅広い開発課題の解決に向けて、先進国には知的な国際貢献が求められています。我が国のODA予算が減少を続ける一方で、新興ドナーが台頭する中で、我が国が国際社会における存在感を維持していくためには、我が国の発展経験と国際協カ経験を活かしつつ知的な面でも支援を行う必要があります。

こうした要請に応え、「国際協カイニシアティブ」では大学・NGOなど我が国の教育関係者が教育・研究を通じて培った知見(知識や経験)を国際教育協カで活用できる形にまとめ、モデル事例として成果物(教科書・教材・カリキュラム・取組方法・取り組んだ成果等)を作成する活動に取り組みました。

協カ経験や実績は人的ネットワーク内での個別記憶の中だけでは残りますが、人の異動等により失われるものが少なくありません。他方でインターネット上の情報は、世代を超えて共有され、優れた情報は、内外で広く参照され続けます。

そこで、インターネット上で成果物を継続的に累積し、公開することで、我が国のODA実績を内外に示す必要があります。特にモデル事例としての成果物は、その主旨から、教育関係者や援助関係者によって発展的に活用されて始めて価値をもたらすものであることから、本事業では、成果物や関係情報の収集・蓄積とともに、情報の公開に積極的に取り組みました。

取組

具体的には、様々な教科に関する教材や指導法、カリキュラム、研修資料など、これまで「国際協カイニシアティブ」や過去に実施した事業、それら事業関係者が持続可能な形で発展的に蓄積した成果物を「筑波大学教育開発国際協カ研究センター」(CRICED)が管理するアーカイブス「『国際協カイニシアティブ』ライブラリ」(平成23年4月1日より「国際教育協カライブラリ」<http://library.criced.tsukuba.ac.jp/>)に電子データの形で蓄積し、内外の国際教育協カ関係者が世界のどの地域からでもアクセス・活用できるように公開しました。

本事業終了後も、CRICEDが自主的に本「ライブラリ」を管理・運営することが決まっています。



事業代表者の声



●本アーカイブス設置当初は、600件程度と少なかった登録件数も、事業実施者の先生方のご尽力により、現在では2000件に及ぶコンテンツが蓄積されています。課題であった英語コンテンツも着実に充実しており、海外からも数多くのアクセスがあります。

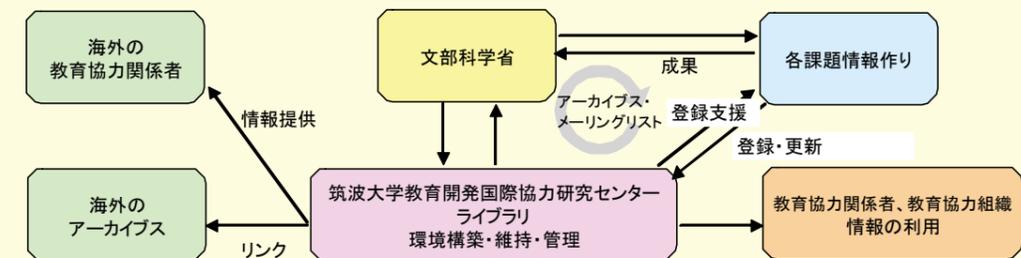
国際協カに従事される方々の活動の参考となる情報を引き続き提供できるよう、今後とも本アーカイブの管理に努力して参ります。

目的

「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点形成事業全体に係る成果物の収集と管理、関連資料の収集と管理、広報等の実施を行う。



活動



成果

ポータルサイト及びライブラリが1年間を通して運用され更新されていくこと。その利用状況を把握し、より利用されるように改善していくこと。



登録コンテンツ(登録コンテンツ数1976件:2011年1月現在)

